



# 新毎日

4月16日(金)  
2010年(平成22年)

## 発明で暮らし豊かに

18日は「発明の日」。多くの主婦たちが日常生活で感じた不便を迎手にヒット商品を生み出している。こんな不況の時代だからこそ、生活感覚を武器に発明に挑戦し、家計の支えにしてみよう。

【清水優子】

☆絞れる水切りザル  
「水切りザルに入れたまま、野菜を絞れたい」。富山市の生駒信子さん(60)はキャベツの手切りやキュウリの塩もみを作る時、野菜を水切りザルで洗った後、再びふきんで水分を取る手間が嫌だった。4年前にザルの材質が軟らかければザルごと絞れる」と思い、1000円ショップで玄關マットの下に敷く溝り止めマットを購

入。丸切り取り、糸でザルに縫いつけてみた。翌年、応募した発明コンクールで位となり、「くしゃくしゃと水切り」の名前で商品化。シリコンゴム製で、税込1000円と安くはないが、多い時は月約40万円の収入があった。23年前に脱サラした夫(60)と原台のラーメン店を営むが一店の売り上げが

☆帯締め房カパー

少ない時は本当に助かったと生駒さん。「自分が不便と感じることは他の人も同じ。アイデアが浮かばたら又もしてみよう」と試作品を作った。千葉市美区の須川長一郎さん(66)が萌したのは「帯房カパー」。有限会社を設立し、年商は約2000万円だ。須川さん自身は着物を着ないが、茶道教室を開く姉

大川とアドバイザー。1年がかりで作った試作品は、加熱して巻き解けたポリレン製のシートを房にかぶせる簡単な物で10本入り600円。退職直後、時間もあったため、呉服店、デパートに直接売り込んだほか、着物雑誌の編集部にも足を運びPRした。徐々に販路を広げ、今は全国15の呉服問屋や複数の百貨店と取引し、内職の4人が製作する。須川さんは発明はあきらめない粘り強さが大川」とアドバイスする。

### 日常の不便からヒット商品 ■工夫の楽しみみ副収入



発明した「靴ひもほどけん」  
に手にする志賀末子さん  
—東京都品川区で清水撮影

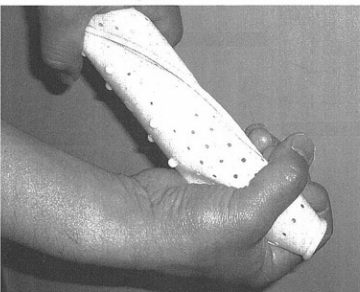
ポイント」と話す。  
＊  
めには、企画書  
を簡潔に分かり  
やすく書くのが

☆靴ひも固定テープ

東京都品川区の主婦、志賀末子さん(66)は、スニーカーの靴ひもがほどけないように固定する粘着テープ「靴ひもほどけん」(1セット399円、4色)を考案した。昨年10月から百貨店などで発売中だ。趣味の写真生に出かけるたびにスニーカーの靴ひもがほどけるのが煩わしく、友人も同じ悩みを抱えていると知り、08年末に試作した。

志賀さんが6企業に送ったオリジナルの企画書は、いずれもA4判の1枚だけ。製品の内容や利便性、思いついたきっかけなどを写真(図入り)で簡潔にまとめて送ったところ、2社から商品化に前向きな返事が届いた。「同じい企業の担当者に読んでもらった

アイディアの権利は、出願する取得物によらず▽特許(対象は、高度な技術的・科学的)た「物」と「方法」▽実用新案(技術的工夫をした物品)▽意匠(物品のデザイン)▽商標(商品の名前やマーク)がある。個人の特許取得の指導や相談に年約8000件乗っている社団法人「発明家協会」(東京都新宿区)の平井工会長は「不便を感じた時、すぐに既製品を買わず、自分で何とかしようと努力するとアイデアが生まれる。多額の経費をかけて実費の範囲で知恵を出して楽しむのが、個人の発明の醍醐味です」と話す。



①野菜を入れたまま絞ることが出来る水切りザル  
②帯房カパーは、透明なカパー(左手前)で発着き込み保護する。いずれも発明家協会の提供

同会は手紙や面接で無料相談(日・月曜除く、ホームページで案内)に応じている。問い合わせは03・60000・7788。